

にあつかいがかり 荷扱掛 駅および車掌区におかれる職であり、昭和37年の職制改正で荷扱手より移行した。小荷物掛および貨物掛の指揮を受け、手荷物・小荷物および貨物の積卸し運搬等の作業に従事するほか、積卸しに関連して貨車の手押入換え、貨車の清掃を行なうこともある。車掌区に配属された場合は、荷扱車掌の指揮を受け、列車に乗務して手小荷物・貨物の取扱作業に従事する。なお駅・車掌区いずれの場合でも、上位職の適切な指示の下に、上位職の職務遂行を助けるため、上位職の職務の一部を行なうことができることになっている。

(森口政雄)

にしてんりゅうせん 西天竜線 静岡県浜松市と同県磐田郡佐久間町および磐田郡宮口町と愛知県南設楽郡鳳来町とを結ぶ国鉄自動車路線であって、所管する遠江二俣自動車営業所は、静岡県天竜市にある。

1 区間・キロ程および沿革

西天竜本線

遠江横山～中部駅口 41.8km 昭28・1・10 開業

大地野口～熊 1.2 昭28・1・10

静愛橋～東栄 1.3 昭30・3・20

浜松～遠江浜川 49.1 昭30・12・15

遠三線

龜玉中学校前～三河大野 38.2 昭30・12・15

三河小野～細川 4.0 昭32・2・20

本路線は昭和38・1・10 天竜線から分離した。

2 営業範囲

旅客のみの取扱いをしている

3 使命

二俣線・東海道本線および飯田線との間の短絡およびこの地域の開発を使命としている。

4 特長

交通機関に全く恵れなかったこの地域に、初めて乗り入れた所で、地元民から盛んな感謝を受けている。なお佐久間町には佐久間ダムがある。

(佐野 実)

にちなんせん 日南線 日豊本線南宮崎駅から分かれ、日向灘に臨む青島・日南を経て有明湾に面する志布志駅に至る営業キロ89kmの線。日豊線に属し線路等級は丙線である。

この線のうち志布志・北郷間は志布志線として昭和10・4 志布志・榎原間、昭和11・3 榎原・大堂津間、昭和12・4 油津まで、さらに昭和16・10 北郷まで開通した。一方、南宮崎方面は南宮崎・内海間に宮崎交通株式会社線(大正2・10開通)があったので、北郷・内海間を結べば日南地区と宮崎地区とは宮崎交通株式会社線を介して直結、九州東南部外郭環状線を形成するところから、北郷・内海間を内海線として建設することとなった。

しかるに宮崎交通株式会社線は輸送能力が低く、連絡輸送上のあい路となることが予想され、昭和35・4 鉄道建設審議会において内海線建設の意義を全うするため、国鉄において所要の措置を講じ、一貫輸送を可能とするようにとの建議がなされた

ため、国鉄では内海線は北郷・青島間を建設し、青島・南宮崎間は宮崎交通株式会社線の線路敷を改良建設することとして工事が起こされ、昭和38・5・8 北郷・南宮崎間全線が完成開通した。この線の開通によって志布志・日南方面と北九州地区は短絡され、南宮崎を経由して列車の直通運転も可能となったので、線名も志布志線志布志・北郷間を加えて南宮崎・志布志間を日南線と名づけた。なお宮崎交通株式会社線は南宮崎・青島間の改良工事に先だって昭和37・7・3 その営業を廃止した。

沿線には亜熱帯植物の青島、リアス式海岸で有名な日南海岸等を控え観光的にもすぐれている。

(高橋昌保)

にほんかんこうきょうかい 日本観光協会 本会は観光事業に関する中枢機関として設立された社団法人である。

1 沿革 昭和39・4 に、日本観光協会法が改正され、本法に基づく法人日本観光協会が、海外観光宣伝業務部門と、国内観光に対する指導部門とに分離され、前者は、改正後の国際観光振興会法に基づく法人・国際観光振興会が、後者は社団法人日本観光協会がそれぞれ担当することとなった。

2 現況 本会は、観光旅行の安全の確保、利便の増進および容易化等のために必要な事業を行なうことにより、国民の健全な観光旅行の普及発達および国際観光の振興をはかり、もって国民の生活・文化および経済の向上発展ならびに国際親善に資することを目的とする。おもな業務は (1) 観光に関する制度・施策等について政府および関係機関等への建議、陳情および意見具申。 (2) 観光関係の機関および団体ならびに会員との連絡提携。 (3) 観光觀念の普及。 (4) 観光資源の保護、保存、開発および利用の促進。 (5) 観光地および観光ルートの開発ならびに総合的整備の促進。 (6) 観光地の美化および浄化。 (7) 観光関係施設の整備、改善の促進。 (8) 観光宣伝の充実、向上。 (9) 観光みやげ品の改善の促進。 (10) 観光関係従業員の資質の向上。 (11) 観光に関する調査、研究および情報の収集ならびに提供等である。会員数は昭和40・1・1 現在約440 である。本会の財政基盤は、会員の拠出する会費のほか賛助金・寄付金等によっており、昭和39年度の総事業費は7,850 万円である。

(吉武賢次)

にほんかんこうつうやくきょうかい 日本観光通訳協会 (英)Japan Guide Association 会員相互の連絡協調、通訳案内業務の向上改善をはかるとともに、会員の品位の保持と地位の向上に努め、国際観光事業の発達に貢献し、国際親善に寄与することを目的として、昭和14・8・15 に結成され、昭和15・5・9 に社団法人となった。

創立当時は会員数80 名程度の団体にすぎなかったが、昭和24年に制定された通訳案内業法による国家試験の施行以来、一般の関心も高まって通訳案内業試験合格者もふえ、一方、来訪外客の増加とともにガイド就業人員も逐次ふえ、この結果、協会の会員も増加して事業規模も次第に大きくなった。

協会のおもな事業としては、 (1) 通訳案内業者すなわちガイドの無料紹介 (2) 通訳案内業務の向上改善に関する調査研究 (3) 通訳案内業務の向上改善に必要な講演会・講習会・研究会、通訳案内業試験合格者を対象とする新人ガイド研修会等の開催 (4) 国際観光事業関係者との連絡協調等である。

会員は (1) 通訳案内業法により通訳案内業の免許を受けた

